

2023年

日本リハビリテーション心理学会
学術大会（ひょうご大会）

会期：2023年12月15日（金）～12月16日（土）

会場：アクリエひめじ

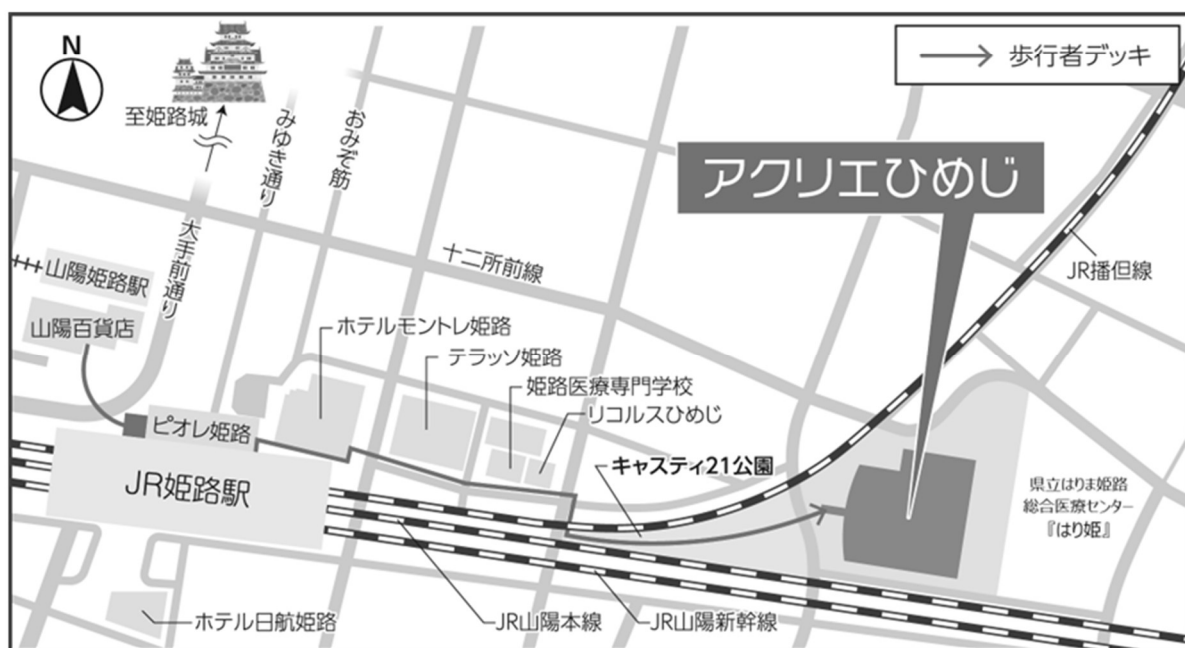
会場周辺案内

車でお越しの方へ

広域マップ

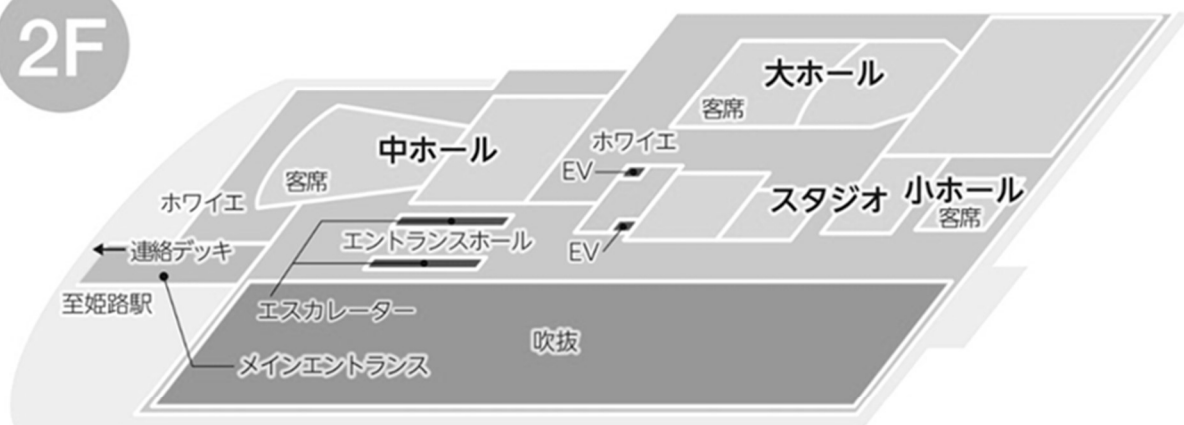


姫路駅からのアクセス



会場案内

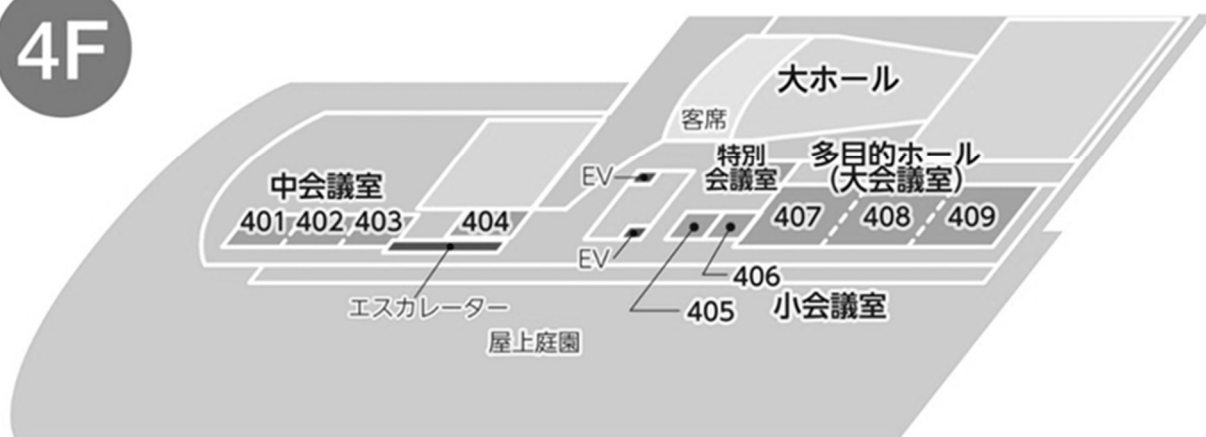
2F



※4階大会会場へのご移動は、2階エントランスホールのエスカレーターもしくはエレベーターをご活用ください。

※中ホールへのご移動は、2階エントランスホールからとなっております。

4F



※口頭発表は、会議室401・402で行われます。

※ポスター発表は、会議室407で行われます。

※大会受付は403、学会事務局は406となっております。

学術大会参加者へのご案内

1. 受付及び場所

12月16日(土)9:00より、アクリエひめじ4階会議室403にて行います。

2. 参加手続きについて

(1) 事前予約参加の方

事前申込にて参加費をお支払いされている方は、受付にて参加証(領収書)・名札ケース・発表論文集等をお受け取りください。

(2) 当日参加の方

受付にて参加申込書へご記入後、当日参加費(4,500円)をお支払いいただき、参加証(領収書)・名札ケース・発表論文集等をお受け取りください。

(3) 発表論文集の追加購入

発表論文集1部は、学会参加費に含まれています。追加購入される場合は、1部500円で別途販売いたします。なお、数に限りがありますので予めご了承ください。

研究発表者へのご案内

1. 口頭発表者は、9:00に各発表会場までお越しください。
2. 口頭発表者は、会場にて受付を済ませ、パソコンの動作確認をお願いします。なお、学会事務局で準備するパソコンは、基本的にWindowsです。Mac版officeをご利用の方で、データを持ち込まれる方は、Windows版への対応をお願いいたします。
3. ポスター発表者は、会場にて受付を済ませ、9:30までに所定のポスターパネルにポスター等の掲示をお願いいたします。

※すべての発表者におかれましては、「研究発表要領」の内容を必ずお目通しいただきますよう、よろしくお願いいたします。

研究発表要領

○口頭形式の研究発表

1. 研究発表責任者(筆頭者)

- 研究発表責任者(筆頭者)になれるのは会員のみです。連名発表者は非会員も可とします。

2. 発表形態

- 研究発表責任者(筆頭者)が口頭形式で研究を発表するものです。
- 連名発表者も大会に参加し発表することが期待されていますが、責任在席はありません。連名発表者は申込者と共同で研究した者に限ります。

3. 発表時間

- 口頭発表の時間は15分、質疑応答は10分です。口頭発表終了後、座長の判断で全体討議が行われることがあります。

○ポスター形式の研究発表

1. 研究発表責任者(筆頭者)

- 研究発表責任者(筆頭者)になれるのは会員のみです。連名発表者は非会員も可とします。

2. 発表形態

- 個人または複数の方がポスター形式で研究を発表するものです。
- ポスターパネル(横90cm×縦210cmの予定)にポスターをセッション開始時刻までに掲示し、それをもとに発表者と質問者が個別に討論します。
- 連名発表者も大会に参加し発表することが期待されていますが、責任在席時間はありません。連名発表者は申込者と共同で研究した者に限ります。

3. 発表時間

- ポスターの掲示時間は110分、責任在席時間は決められた60分です。
※総会の開始時間の都合上、ポスター掲示時間を短縮致しました。

○発表研究の条件

- 発表研究は、大会での発表時において未発表であるものに限り、すでに印刷製本して公表された研究（単行本、学会誌、紀要〔大学、研究会、図等〕、雑誌等に発表されたもの）は、大会において発表することはできません。
- 発表研究は、本学会倫理綱領に基づいていなければなりません。発表者はこれを踏まえて、発表者自身の責任において発表してください。

○発表の成立条件

- ポスター発表は、「ポスターでの発表」「質疑応答への参加」「論文集への発表論文掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められます。また、発表者は「発表説明責任時間」の間、自分のポスター掲示場所に在席していなければなりません。かつ、ポスターは所定の時間掲示されなければなりません。
- 口頭発表は、「口頭での発表」「討論への参加」「論文集への発表論文掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められます。また、発表者は発表会場終了前に退席することはできません。
- 研究発表責任者（筆頭者）は、発表開始前に発表会場での受付を済ませ、その会場にて待機しなければなりません。
- 研究発表の際、研究発表責任者（筆頭者）は必ず発表会場に出席しなければなりません。
- 研究発表責任者（筆頭者）がやむをえない理由で発表ができなくなった場合、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者〈他の発表で研究発表責任者（筆頭者）となっていない者〉が研究発表責任者（筆頭者）となることができます。〈研究発表責任者（筆頭者）の交代〉。座長への届け出での取り下げおよび交代は無効とされます。
- 倫理的な問題等により発表が認められない場合があります。

○発表回数

- 研究発表責任者（筆頭者）となれるのは、大会期間中（口頭形式、ポスター形式をあわせて）1回に限ります。ただし、連名発表者となる場合には回数の制限はありません。

学術大会日程

◆ 12月15日(金)

14:00 15:30 17:00 18:00

編集 委員会 (402)	常任 理事会 (402)	理事会 (402)
--------------------	--------------------	--------------

◆ 12月16日(土)

9:00 9:30 11:40 13:00 17:00

受付	口頭発表 A(401)	総会 (中ホール)	第48回心理リハビリテーションの会 全国大会
	口頭発表 B(402)		
	ポスター発表(407)		

◆ 12月17日(日)

9:00 12:30

第48回心理リハビリテーションの会 全国大会

研究発表タイムテーブル

12月16日(土) / アクリエひめじ(4階) 会議室フロア

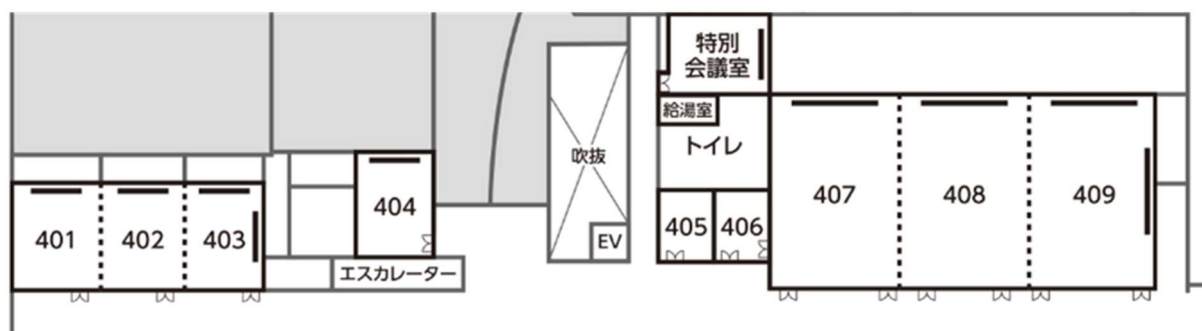
◇ 口頭発表 9:30~11:20 ※発表者については筆頭者のみ記載

	口頭発表 A-1(401)		口頭発表 B-1(402)	
9:30~ 9:55	① 望月宇	座長:井村修	① 柳裕哉	座長:堀江幸治
9:55~10:20	② 指方賢太		② 五位塚和也	
10:20~10:30	休憩			
	口頭発表 A-2(401)		口頭発表 B-2(402)	
10:30~10:55	① 宮崎昭	座長:田中新正	① 金城昇	座長:古川卓
10:55~11:20	② 久田信行			

◇ ポスター発表 9:30~11:20 ※発表者については筆頭者のみ記載

ポスター発表 P(407)		
P-1 田中紀行	P-2 石田基起	P-3 久保綾音
P-4 川辺裕佳	P-5 高倉那々実	P-6 オルランド ヤコポ
P-7 松村恭平	P-8 船橋篤彦	P-9 松藤光生
P-10 丸山明子		

◇ アクリエひめじ(4階) 会議室フロア(見取り図)



研究発表プログラム

口頭発表

口頭発表 A - 1 (9:30 - 9:55) 座長: 井村修 (奈良大学)

- | | | |
|------------------------------|----------------|----------------------------------|
| ① 異文化適応における臨床動作法の応用可能性について | ○望月 宇
顧 佩霊# | 九州大学
九州大学キャンパスライフ・健康支援センター |
| ② 頻尿と不登校に悩む高校生男子に対する臨床動作法の適用 | ○指方賢太
小澤永治 | 九州大学大学院人間環境学府
九州大学大学院人間環境学研究院 |

口頭発表 A - 2 (10:30 - 11:20) 座長: 田中新正 (大分大学)

- | | | |
|---|--|---|
| ① 「動作」が生み出す身体と環境との相互作用現象 (こころ) の理論的考察 (2)
課題動作過程の「おまかせ」をめぐって | ○宮崎 昭 | 環境とこころとからだの研究所 |
| ② 教育動作法における「引き緩め技法」の検討 (3)
—比較的緊張の強い事例と実施した技法— | ○久田信行
浅井美由貴#
野田香代子#
川村賢一
中林真純#
設楽典子 | 群馬医療福祉大学
群馬県立二葉高等特別支援学校
前橋市立前橋特別支援学校
群馬県立あさひ特別支援学校
群馬県立藤岡特別支援学校
群馬心理リハビリテーション研究会 |

口頭発表 B - 1 (9:30 - 10:20) 座長: 堀江幸治 (九州女子大学)

- | | | |
|--|-----------------|--------------------------|
| ① コロナ禍における障害者とその家族を取り巻く諸問題
宮崎県でのインタビュー調査から | ○柳 裕哉
黒田 嘉紀# | 宮崎大学医学部社会医学講座
公衆衛生学分野 |
| ② 自閉スペクトラム症および知的障害のある児童への動作法を通じた情動調整と社会的コミュニケーションの支援 | ○五位塚 和也 | 大阪大谷大学教育学部 |

口頭発表 B - 2 (10:30 - 11:20) 座長: 古川卓 (琉球大学)

- | | | |
|---------------------------|-------------------------|---|
| ① 動作法を活動の核とした「通いの場」づくりの試み | ○金城 昇
神谷 義人
照屋 有子 | 名桜大学人間健康学部
名桜大学人間健康学部
うるま市役所健康支援課 |
|---------------------------|-------------------------|---|

ポスター発表

ポスター発表 (9:30 - 11:20)

P-1 日常生活に困難を有する生徒の姿勢づくり ー5p欠失症候群への動作法によるアプローチー	○田中 紀行	こんごうの会
P-2 睡眠に課題がある成人脳性まひ者に対する セルフケアとしてのひとりSARTの適用と改善	○石田 基起 山 森 一 希 本 吉 大 介 小 田 浩 伸	兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所 大阪府立藤井寺支援学校 筑波大学大学院人間総合科学学術院 熊本大学大学院教育学研究科 大阪大谷大学教育学部
P-3 足が震えて歩けないと訴える男性への臨床動作法の適用 ーロールシャッハ・テストからの見立てを活用してー	○久保 綾音 古賀 聡	九州大学大学院人間環境学府 九州大学大学院人間環境学研究院
P-4 精神科デイケアにおける臨床動作法の取り組み ー課題を通じた自己への向き合い方に着目してー	○川辺 裕佳 板井 咲希 古賀 聡 栗田 輝久	九州大学大学院人間環境学府 医療法人桜珠会可也病院 九州大学大学院人間環境学研究院 医療法人桜珠会可也病院
P-5 看護学生の授業におけるセルフリラクゼーション体験の効果 ーストレスマネジメント教育の一貫としてー	○高倉那々実 古賀 聡	九州大学大学院人間環境学研究院 九州大学大学院人間環境学研究院
P-6 動作訓練初学者の実践に伴う困難とは何か	○オルランドヤコポ 田中翔万	九州大学大学院人間環境学府 九州大学大学院人間環境学府
P-7 開眼イメージ法における体験過程の理解に関する研究	○松村恭平 小澤永治	九州大学大学院人間環境学府 九州大学大学院人間環境学研究院
P-8 「アフターコロナ」時代の宿泊型キャンプの在り方と トレーナー養成に関する考察 ー3泊4日の宿泊型キャンプ実施を踏まえてー	○船橋篤彦 上手幸治 服巻豊 藤川卓也 川俣優	広島大学 広島経済大学 広島大学 広島大学 広島修道大学
P-9 心理リハビリテーション活動の再活性化の試み① ーやすらぎ荘における活動のための組織づくりと活動実績ー	○松藤 光生 藤瀬 教也 重橋 史朗 吉川 昌子 岩男 芙美	中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学
P-10 心理リハビリテーション活動の再活性化の試み② ーやすらぎ荘における学生の臨床研修体験の報告からー	○丸山明子 高倉那々実 小澤永治 古賀 聡 野村れいか	九州大学大学院人間環境学研究院 九州大学大学院人間環境学研究院 九州大学大学院人間環境学研究院 九州大学大学院人間環境学研究院 九州大学大学院人間環境学研究院